

平成31年3月 定例記者会見（報告）

1 日 時 平成31年3月26日（火）午前11時～午前11時20分

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>朝日新聞、河北新報、毎日新聞、山形新聞、米澤新聞社、読売新聞、
SAY、YTS、NCV、置賜日報デジタル

<市> 市長、秘書広報課長、担当者

4 記者倶楽部からの質問事項

- (1) 秋の市長選に向けて、どう取り組みますか。
- (2) その他

5 改元に関する追加質問

- (1) 平成という時代への思いを聞かせてください。
- (2) 新しい時代に期待することを聞かせてください。
- (3) 市長が考える（予測する）新元号があれば教えてください。

6 内 容

○秘書広報課長

それでは、定刻となりましたので、平成31年3月の定例記者会見を始めさせていただきます。初めに、市長から質問に答えさせていただきます。

○市長

よろしく申し上げます。この度は、「秋の市長選に向けて、どう取り組みますか」という質問を頂戴しております。間もなく、統一地方選挙の県議会と市議会の選挙が始まります。まずはその状況を見ながら取り組んでいくことにさせて頂きたいと思っております。新年度は、市庁舎の建設や市立病院建て替えの基本設計など、市にとって重要な事業が具体的に動き出します。これにはまず全力で取り組んでいきたいと考えております。また、新天皇即位による改元や本市にとっては、市制施行130周年や鷹山公入部250年という節目の年でもありますので、これらの慶事を持続可能な米沢市の発展につなげていきたいと思っております。

市長としての一期目の任期が終了する11月まで、課題解決に全力で取り組んでいくことが使命であると考えております。市長選への実際の取り組みは、7月に参議院議員の選挙もあり、その選挙が終わってからになるのだらうと思っておりますので、それまではしっかりと地盤固めを進めていきたいと考えております。

また、二期目についても、現在取り組んでいる事業や政策、そして、将来、米沢市が持続可能なまちとして発展するよう、その基盤作りにもしっかりと取り組んでいきたいと思っております。今のところ、市長選挙に向けてはこのような状況でございますので、どうかご理解を頂きたいと思っております。

○秘書広報課長

市長からの回答は以上となります。質疑がありましたら幹事社を中心によくお願いします。

○幹事社

はい。質疑のある方はいらっしゃいますでしょうか。

○記者

統一地方選挙の話が出ましたが、県議選の方で米沢市選挙区は無投票当選という流れに向かっているようです。様々なご経験がある中で、県議選での無投票当選についてはどのようにお考えでしょうか。是非論など、いろいろあるとは思いますが、米沢市選挙区ではなぜ無投票当選が出てくるのか、その要因分析はどのようにお考えでしょうか。

○市長

まず、無投票当選が良いのか悪いのかという判断につきまして、私も経験しましたが、選挙というのは普通の人間が政策を言い争って、そして住民の皆様はその政策をご理解していただくことに大きな意味があると思っております。立候補者ご本人にとってはある意味良いのかなと思っておりましたが、県議を経験した立場から言わせて頂きますと、当選後、後援会との問題などもありますので、やはり選挙は戦って勝ち取るべきだろうと考えております。

また、無投票当選が出てくる要因についてですが、一つは現職の方々がしっかりと政治活動をなさっているのだろうと判断しております。今回は新人が一人立候補される訳ではありますが、高速道路の開通など長年の実績がある後藤源先生の後継者であります。はっきり申し上げまして、現職並みの体制が出来上がっていると私は判断しておりますので、新人が出にくい状況になってきているというのも事実なのだろうと思っております。

○記者

ありがとうございました。

○市長

次に、改元に関する追加の質問に答えさせていただきます。まず、「平成という時代への思いを聞かせてください」という質問です。30年と少し続いた平成ですが、平成の初期は、第47回「べにばな国体」の開催が目の前に迫っておりました。そのような中で、米沢市は夏季の水泳会場となりましたし、秋季大会においては野球やフェンシング、弓道などの競技種目の開催地となりました。現在の皆川球場を含めて、総合運動公園の整備にも着手した時代でもあったと思っております。また、山形新幹線の整備も国体に合わせて急ピッチで進められました。山形県全体や本市にとって、平成最初の

時期は基盤整備ができた年代であったとっております。

その後、バブル時代のリゾート開発等が非常に厳しい状況になってきた訳ではありますが、それまでは景気の良さを実感する時代でもあったと思います。しかし、平成9年頃から地方分権が進み、その後の三位一体の改革によって、地方の財政は非常に厳しくなっていたと記憶しております。そして、平成15年には東北中央自動車道の新直轄方式での整備が確定した年でもありましたし、同時に、産学官連携を進めてきた米沢市にとっても、山形大学工学部の城戸淳二教授による有機EL照明の発明があった年でもありました。その後は、リーマンショックや東日本大震災など、米沢市にとっても非常に厳しい状況が生まれてきました。この平成30年間を振り返ってみますと、地域にとって明と暗の分かれた時代であったとっております。

次に「新しい時代に期待することを聞かせてください」という質問についてです。景気の持続も期待しておりますが、人口減少や少子高齢化が進み、地方創生とは言っているものの、日本の良さや人の心が失われていくような、ある意味寂しさを感じるような時代にもなってきたのかなとっております。

また、新天皇が新たに即位、現天皇が譲位されるということですので、米沢市では市制130周年を迎えることや、鷹山公の入部250周年ということもあって、こういった慶事をしっかりと受け止めながら、今後の米沢の未来づくりに頑張っていかなければなりません。以上のように、新しい時代には、日本全体のお祝い、そして景気がさらに浮上することを期待しているところであります。

最後に、「市長が考える新元号があれば教えてください」との質問ですが、私の頭ではとても新元号を考えることはできません。ただ、平成という言葉は使い慣れたせいか、非常に単純で明快な年号であるなど感じております。国民や市民の皆さんにも分かりやすく、ある意味で簡単な年号の方が良いのではないかと思います。間もなく新元号が発表されますので、どのような年号になるのか期待したいです。追加の質問に対する回答は以上です。

○記者

この30年間は市民にとって明と暗の時代でもあったとのことでしたが、「政治家中川勝」にとってはどうでしたか。平成に入ったのは、市議会議員の2期目の途中だったと思いますが、その後、市議会議長や県議会議員を経験されて現在は市長です。政治家としては順調な30年だったと思いますが、その辺はいかがでしょうか。

○市長

順調という言葉が適切かどうかは別にしても、お話にもありましたが、平成に入った時、私は市議会議員の2期目でした。先ほども申し上げましたように、平成に変わり、第47回国体ということもありまして、米沢市の課題に合わせた重要な事業が進んだ年でもありました。公共交通網の基盤については、山形県全体が遅れを取ってきた中、整備が進んでいったということで、その中で、市議会議員や議長、県議会議員を行ったというのは、変わり目の時代を議員として経験をさせて頂いたと思っております。

ただ、良いことばかりではなく、非常に厳しい、苦しい状況にもあったということもありました。平成9年から市議会議長をさせて頂き、地方分権一括法という法律の中で、三位一体改革というものが、非常に市の財政を厳しくしたということは言えるのだらうと思っております。現在も米沢市の財政は厳しい状況にありますが、あの頃までの厳しさを考えてみますと、経常収支比率を例にとってみても、その当時は80%くらいが健全な経常収支比率と言われており、現在は全ての自治体に言えることですが、それだけ国からの配分が厳しくなっているといえます。

これからの人口減少社会を乗り切っていくために、国はもう少し知恵を出しなさいということで、地方創生と言っているのだらうと思いますが、人口減少によって地域の経済や財政を縮小させてしまうという状況も生まれてきております。このようなことに対応していくという、非常に厳しい思いもしながら、これからの米沢や置賜地域全体を首長としてどのように舵取りをしていくかということでもあります。順調に市議、県議、市長を務めたということになっておりますが、ある意味、その時、その時で、責任のある対応をしていかなければならないのではないかと考えているところでもあります。

○幹事社

私から質問です。新年度から定住自立圏として置賜は一つになって取り組む訳ですが、その意気込みをお聞かせください。

○市長

ようやく3市5町の定住自立圏構想ビジョンが策定され、住民の方々からご意見を頂いておりましたが、年度末になってその方向性が見えて参りました。今後はいろいろな課題に3市5町で取り組んでいかなければならないと思っておりますが、新年度が初年度でありますから、まず無理のないように進めていきたいと思っております。

共通課題である広域観光の取り組みについては、県との協議に入っている部分もありますし、米沢牛の頭数確保についても、それぞれの地域の中で対応をしております。2市5町と米沢市が地域の活性化や住民福祉の向上に向けて、どのように進めていくかということになってきますので、一つ一つのまちとの関係をしっかりと頭に入れ、協調しながら進めていくという覚悟で取り組んで参りたいと思っております。

○幹事社

ありがとうございます。その他について、よろしいでしょうか。

○秘書広報課長

ないようですので、これで平成31年3月の定例記者会見を終了いたします。